



日本とオランダの懸け橋に



本町12人目の教育委員会外国語指導助手
エレン・バン・ダム
ELLEN VAN DAMさん (オランダ出身・24歳)

「海がとてもきれいで、優しい人たち。山田に来てとても幸せ」と町の印象を語るエレンさん。八月四日から本町十二人目の教育委員会外国語指導助手として教壇に立っています。「山田の生徒は元気があって、あいさつもしっかりとしてくれます」と持ち前の明るさで山田の生活に溶け込んでいます。大学では日本語・英

語学科を専攻。日本滞在の経験も豊富で、日本で英語の教師になるのが夢。「山田の生徒には英語はもちろん、オランダと日本の文化の違いを教えたい」と流ちょうな日本語で話します。出身地はオランダのデューネ村。「酪農が盛んで、とても静かな小さな村です。自然がいっぱいなのは山田と似ていますが、山田は山が多くてビックリ。でも一番驚いたのは熊が出る」と山田に来て驚いたのは、防災行政無線での「熊出没」の放送だとか。山田に着いて早々、

オランダ島で海水浴をしたり、山田の秋祭りを見たりと、すっかり山田の魅力にはまっています。日本料理が大好きで、山田のすしがお気に入り。でも納豆だけは…。趣味は映画鑑賞と漫画を読むこと。そして山田に来て始めた剣道。「初めは気合の声を出すのが恥ずかしかったけど、とても楽しい。早く防具をつけて練習したい」と日本の文化について学ぼうと意欲満々です。

抱負については「山田町とオランダの交流推進のため、各種事業で協力していきたい」と笑顔で話してくれました。

国際交流協会がNPOに

本町で第1号の認証受ける



山瀬宗光局長(左)から認証書を受け取る濱登長一郎理事長

山田町国際交流協会(濱登長一郎理事長・会員三十七人)が県宮古地方振興局から、本町で第一号となる特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を受けました。同振興局内でのNPO法人設立は十三団体目となります。交付式は九月二十一日、同振興局局長室で行われ、同法人の濱登理事長、千代川泰久副理事長、清水誠勝理事兼事務局長、湊雅義監事が出席。山瀬宗光振興局長から濱登理事長に認証書が手渡されました。

同協会は、平成八年に任意団体の国際交流倶楽部として発足しました。翌年、全町的な団体として国際交流推進の中核的役割を果たすため同倶楽部を解消し、現在の協会を設立。国際理解講座や中国語、英会話教室、国際支援バザーの開催などを続けてきました。今回、認証を受けて法人格を持ったことにより、社会的に責任ある団体として信用性を高め、さらに活動を充実していくこととなります。

濱登理事長は「水産加工研修生や縫製工場で働く中国人など、町内に居住する外国人への支援をはじめ、オランダとの交流を推進する山田町とタイアップし、国際化の町を目指していきたい」と抱負を述べていました。